



こんな俺でも、

父親になれますか？

ういうものがしつかりと表現できたのは良かったです。

取り終えての感想を！

男鹿でなければこういう映画作りはできなかったと思います。新人監督でこのような幸せなデビュー作を撮らせていただいたのは本当に恵まれていて、だからこそずっと残っていくような「芯のある映画にしたい」と改めて思いました。ナマハゲは、いろいろなことがあっても今日まで続いてきていますし、担い手が少なくなってきたとしても続けなければいけない、俺たちの代で終わらせられないというような、「答えのない、すぐに答えの出せないこと」だと僕は思います。

ここにも注目！
主人公役の仲野太賀君が、保育園で娘を探すシーンがあるんですが、実際にそのシーンまで娘役に太賀君を合わせないようにスタッフ全員が協力していました。あのシーンで初めて主人公が娘の顔を探すという芝居ですけど芝居じゃない、本当にどれが娘なのか分かっていないところを撮ることができ、皆さんの協力です。

から先もあるかもしれない。それでも続けていかなければいけない、残していきたい、そういう覚悟をこの映画に込めたかったです。この映画もナマハゲと共に残り続けて、それでも男鹿で生きていこうという思いにつながればいいなと思っています。



豪華俳優陣の キャスティングは？

太賀君は、初めから主人公に決めていました。平成28年に「壊れ始めてる、ハイハイハイ」という短編映画を撮ったんですが、その時に主人公として初めて出ていただき、素晴らしい役者だなと思い、自分の商業デビュー作は太賀君でと考えていました。

また、キャストそれぞれが方言を大事にしてくれて、炊き出しをしてくれた婦人会の皆さんとのやり取りの中から男鹿弁のしゃべり方を学んだり、地元の食堂や居酒屋を訪れたりして、男鹿の雰囲気を感じ取っていましたね。

